

# 「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま、壱岐」

## 概要

壱岐市は、平成16年3月1日に郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の4町が合併して誕生しました。

壱岐市は、福岡県と対馬の中間地点で玄界灘に面し、福岡県博多港から郷ノ浦港まで西北76km、佐賀県呼子港から印通寺港まで北26kmの位置にあります。

南北約17km、東西約15kmのやや南北に長い亀状の島で、総面積は138.45km<sup>2</sup>、壱岐本島と21の属島（有人島4・無人島17）からなる全国で20番目（沖縄は除く）に大きな島です。

地形は一般に丘陵性の玄武岩をなし、高度100メートルを超える山地が占める面積は極めてわずかです。分水嶺は西に偏り、谷江川は北西から南東に、

幡鋸川は西から東に流れ、そ

の流域には、本島最大

の平野（深江田原）が

発達しています。

海岸線は屈曲

が多く、発達し

た海蝕岩がみ

られる北東部

を除けば、大

小の湾入があ

ります。特に、

西岸一帯は激

しく、溺谷の原型を保つており、南東岸には、大小の砂浜が点在しています。

昭和43年7月22日に、壱岐の一部地域

が壱岐対馬国定公園に指定、また、昭和53年6月16日には、辰の島・手長島・妻ヶ

島の3ヶ所が海中公園地区に指定され

など自然景観にも恵まれています。

現在、壱岐市では「①産業振興で活力

あふれるまちづくり、②福祉・健康づくり

の充実で安心のまちづくり、③自然を生

かした、環境にやさしいまちづくり、④心

豊かな人が育つまちづくり、⑤国内外交

流が盛んなまちづくり、⑥さまざまな人

が関わり合うまちづくり」の6つの基本

指針をもとに、「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま、壱岐」を目指し、新しいま

ちづくりを進めています。

## 気象

対馬暖流の影響を受け、概ね温暖な海洋性気候です。県本土の長崎市・佐世保市と比較すると、年間を通して1~2度

低く、同緯度の福岡県北部と比較すると、

夏季は涼しく、冬季はやや温暖で、降雪や

積雪もまれです。

降水量は、6~7月の梅雨期と9月の台

風、秋雨時期に多く、県本土よりはやや少ない傾向にあります。

人口・面積	
壱岐市	33,538人 138.45km <sup>2</sup>
郷ノ浦町	12,600人 47.31km <sup>2</sup>
勝本町	6,914人 29.51km <sup>2</sup>
芦辺町	9,272人 45.12km <sup>2</sup>
石田町	4,752人 16.51km <sup>2</sup>

